

## 平成 29 年度第 1 回患者家族支援部会 開催報告

### 1. 日時等

平成 29 年 8 月 10 日（木）14:00～16:00  
県庁第 2 分庁舎 101 会議室

### 2. 部会長

三成楊子氏（患者遺族代表）

### 3. 議事要旨

#### （1）次期島根県がん対策推進計画について

ロジックモデルについて

- ・最終アウトカムの指標の数を増やしてはどうか。
- ・取組の際にやる気の起こる指標を設定してほしい。
- ・現状に満足度している患者の割合が高過ぎるように感じる。
- ・指標について、国立がん研究センターの行った患者満足度調査を持ってくるともだが、県が独自調査する必要があるのでは。
- ・計画に落とす際は、うまく伝わるような書き方が必要。

検診について

- ・企業は、営利にならない従業員の検診受診などに関心が低い。

がん医療について

- ・東西格差解消に向けた取組が必要である。

相談支援について

- ・心理的支援も重要である。
- ・拠点病院の医師に相談支援センターのことを分かってもらうことが必要であり、認知度や患者への紹介状況など調査が必要。

情報提供について

- ・行政からの情報提供が不十分。例えばしまねのサポートブックがどこで手に入るのかわからない。
- ・サポートブックは母子手帳のようなもの。がんと告知されたとき手にできるようにしてほしい。
- ・在宅では、積極的に治療を行う場合、終末期でQOLを重視する場合、そしてその中間がある。積極的な方は相談窓口とつながりがあるが、そうでない中間や終末期にある方に対し、正しい情報を知ってもらうようにすべきである。
- ・適切な情報を必要とする人に届くかどうかが大切。小児AYA世代へいかに

情報を伝えるか。

**(2) 患者団体等とがん診療拠点病院長等の意見交換会の状況について**

- ・拠点病院長に直接意見を伝えられる場であり、全国でも島根だけが行っている。
- ・開始から 10 年経過し、議題がマンネリ化している。
- ・議題が個人的な内容になっており、会の趣旨にそぐわないものがある。
- ・病院長が実施を検討すると回答した場合、本当に検討したのかフォローができていない。
- ・意見を言うにあたり、患者は勉強することが必要。さらに要望を言うだけでなく患者として協力する姿勢が大切ではないか。
- ・1 質問につき、数名の病院長から回答されるが、病院長全員から聞きたい。
- ・患者同士のグループワークを経て当日の議題を決定するが、一部の患者の意見が採用されやすい。

## 平成 29 年度 第 1 回 患者家族支援部会 出席者名簿

### 【部会委員】

	氏 名	所 属 等	備 考
協 議 会 委 員	小泉 志乃婦	あけぼの会島根支部長	
	立石 大介	株式会社ツルハグループドラッグ&ファーマシー西日本 調剤本部薬剤部部長	
	野稻 和男	ほっとサロン益田 世話人	
	平野 文子	島根県立大学 看護学部 教授	(欠席)
	藤田 千鶴	サロン隠岐たんぼぼ 世話人	(欠席)
	船田 裕介	島根県保険者協議会委員 (全国健康保険協会島根支部 企画総務部長)	(欠席)
	楨野 俊徳	山陰中央新報社 取締役	(欠席)
	楨原 貴子	島根大学医学部 医療サービス課 主任 (がん専門相談員)	
	馬庭 貴子	すぎうら医院管理栄養士・介護支援専門員	
	若狭 雅子	島根県がんピアサポーター	
協 議 会 委 員 外	加山 益雄	おおなん元気サロン 世話人	
	三成 楊子	家族・遺族代表	
	米山 芳子	ほっとサロン 世話人	(欠席)

### 【事務局】

氏 名	所 属 等	備 考
西尾 淳	島根県健康福祉部健康推進課 がん対策推進室 室長	
北山 亜紀子	島根県健康福祉部健康推進課 がん対策推進室 企画幹	